

平成19年度
全国学力・
学習状況
調査結果

大村市の状況についてお知らせします

昨年4月に全国で実施された全国学力・学習状況調査の結果が、文部科学省から公表されました。教育委員会では、より望ましい学習環境を整備していくために、学力や生活状況、意識について、調査から明らかになったことを広く市民の皆さまにお伝えしたいと考えました。子どものすこやかな成長のため、ひきつづきご理解とご協力をお願いします。

調査日時

平成19年4月24日(火)

参加状況

校種	学年	学校数	参加人数/在籍数(人)	割合(%)
小学校	6年生	14校	1,024/1,043	98
中学校	3年生	6校	990/1,036	96

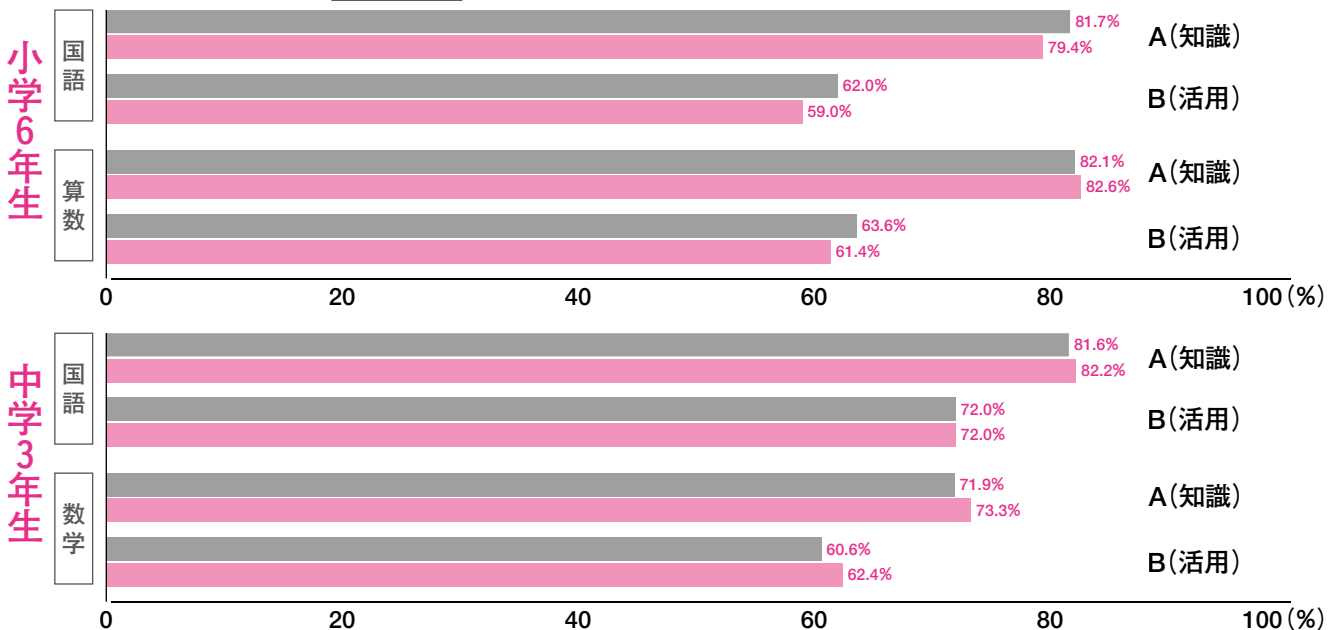


※黒木小は6年生の在籍なし

学力調査

1 平均正答率

全国
本市



2 本市の概況

小学校国語

知識・活用ともに全国平均値をわずかですが下回っています。言語事項などの基礎的・基本的事項および、文章から情報を読み取る力の正答率がやや低くなっています。

中学校国語

知識・活用ともに全国平均以上であり、おおむね良好な定着状況にあります。しいて挙げれば、「書く」領域においてやや低い正答率となっています。

小学校算数

知識において全国平均を上回っており、基礎的・基本的事項の定着が良好であることが分かります。しかし、一方で活用は、数と計算、数量関係の領域における活用力でやや正答率が低くなっています。

中学校数学

知識・活用ともに、全ての領域で全国平均を上回り、学力の良好な定着状況がうかがえます。特に「図形」領域において高い正答率を示しています。

総合的に見ると、小・中ともに国語科において個人差が大きい傾向となっています。

学習状況調査

1 調査結果(抜粋) ※グラフ中の数字は調査項目に該当すると答えた児童生徒の割合

全国 ■
本市 ■



2 本市の概況

小・中学生ともに全国と比べて、極めて望ましい学習および生活状況にあります。早寝・早起き・朝ご飯を基調とした規則正しい生活を送っており、家庭で家族との会話が多く交わされています。また学習面では、特に中学3年生において、家庭学習が習慣化しています。

一方、心のありさまについては、「学校のきまりを守る」や「いじめは許さない」という意識が高く、規範意識が育っていることが分かります。また「将来の夢や目標がある」子どもが多く、望ましい傾向にあることがうかがえます。

しかし、「地域の行事に参加している」という意識が低かったり、「地域の大人から注意されたことがない」という児童生徒が多かったりと、子どもと地域社会とのつながりの希薄さが懸念される結果も出ています。地域の行事に家族で参加したり、市民大清掃に子どもも連れて行ったりしながら、地域の皆さんとふれあう機会を増やし、子どもたちに地域への所属感を感じさせることが必要と思われます。

調査結果から

今回の調査の目的は、教育の機会均等と教育水準の維持向上にあります。得点率の比較にばかり目をとられ、過度な安心感や無用な不安感を募らせてはなりません。学校と地域と家庭が、まずは大村の子どものよさを知り、連携・協力を図り、安心して安定した子育てができるまちづくりをすることが、「確かな学力」や「豊かな心」につながります。

これをふまえ、市は「魅力ある学校づくり」を第一の目的に掲げ、学校・家庭・地域が一体となって、それぞれの立場から子どもたちの学習環境を整備することに、今回の調査結果を活用していきたいと考えています。

問い合わせ 学校教育課(内線364)